

東五原岡岡岡



良明二葉

万亭應賀作

沢村屋

25

20

15

10



天村屋

明良二葉

万亭應賀作

武編の上のまのまき



A623
3

景橋本日

壽活の夜

振ふまゐるの

月夜を

風が

上りみぞ

たりの

万亭應賀



明良三葉州二編

上巻条目

二代將軍三島駒御本陣
於奇談と聞ゆひ本多佐渡
守と口ろる事
三島明神の神池の魚と取り者
刑罪を行ハ令めゆ事
還御の駅々御威光輝く事
諸臣御出迎ひ柳營の内
外
取
竹千代君の御乳母春日局
還御の前當惑心配する事

下巻条目

將軍御歸城御親族御對面
御上座下さる事
稻葉佐渡守正成筑前家と退き
本国美濃へ浪居の事
正成の妻福女石清水參詣の事
京都所司代板倉伊賀守栗田口
へ高札と立る事
福女所司代へ出て竹千代君の
御乳母を願ひ江戸の大奥へ入
春日と改名する事

万亭應賀作

二葉州二上

48-7667

徳川竹千代君
此君ハ秀忠公の御嫡男

御母
堂ハ

御臺所慶長九年七月十七日江戸西の
九ノ御誕生御聰明
も故あて若君の御弘め

延引せが御乳母春日局の賢忠よとて
家光公と稱せられ終る三代の將軍よ立ぬ



御乳母
春日の
局

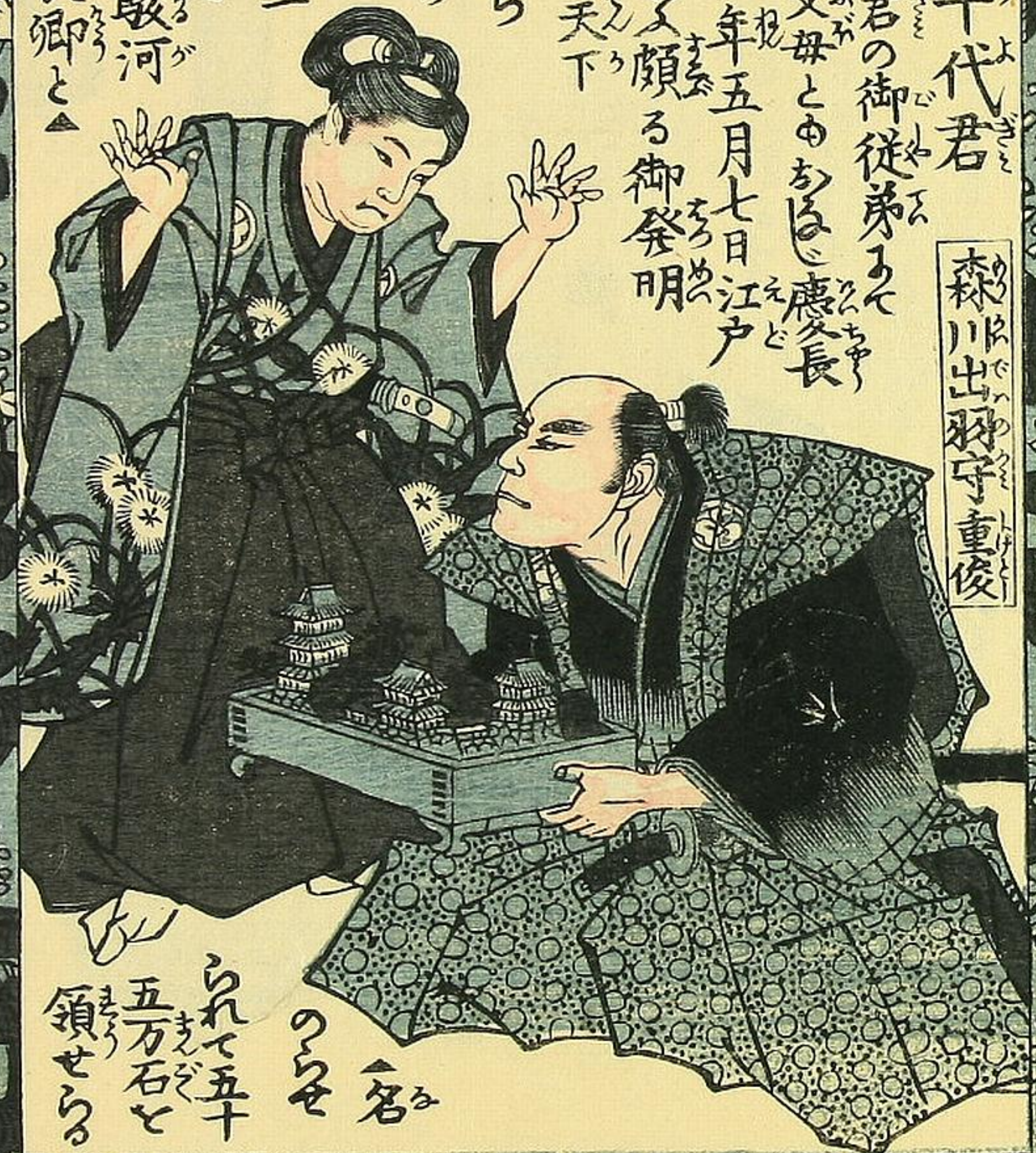
徳川國千代君

此君ハ竹千代君の御従弟とて
御父母とのおはる徳長
城ハ生きたる頗る御發明
されば此君を天下
の主よまきせら

大御所の
御一

言よりこと
るる老終る駿河
大納言忠長卿と

森川出羽守重俊



名
のら
られて五千
五万石と
領せら

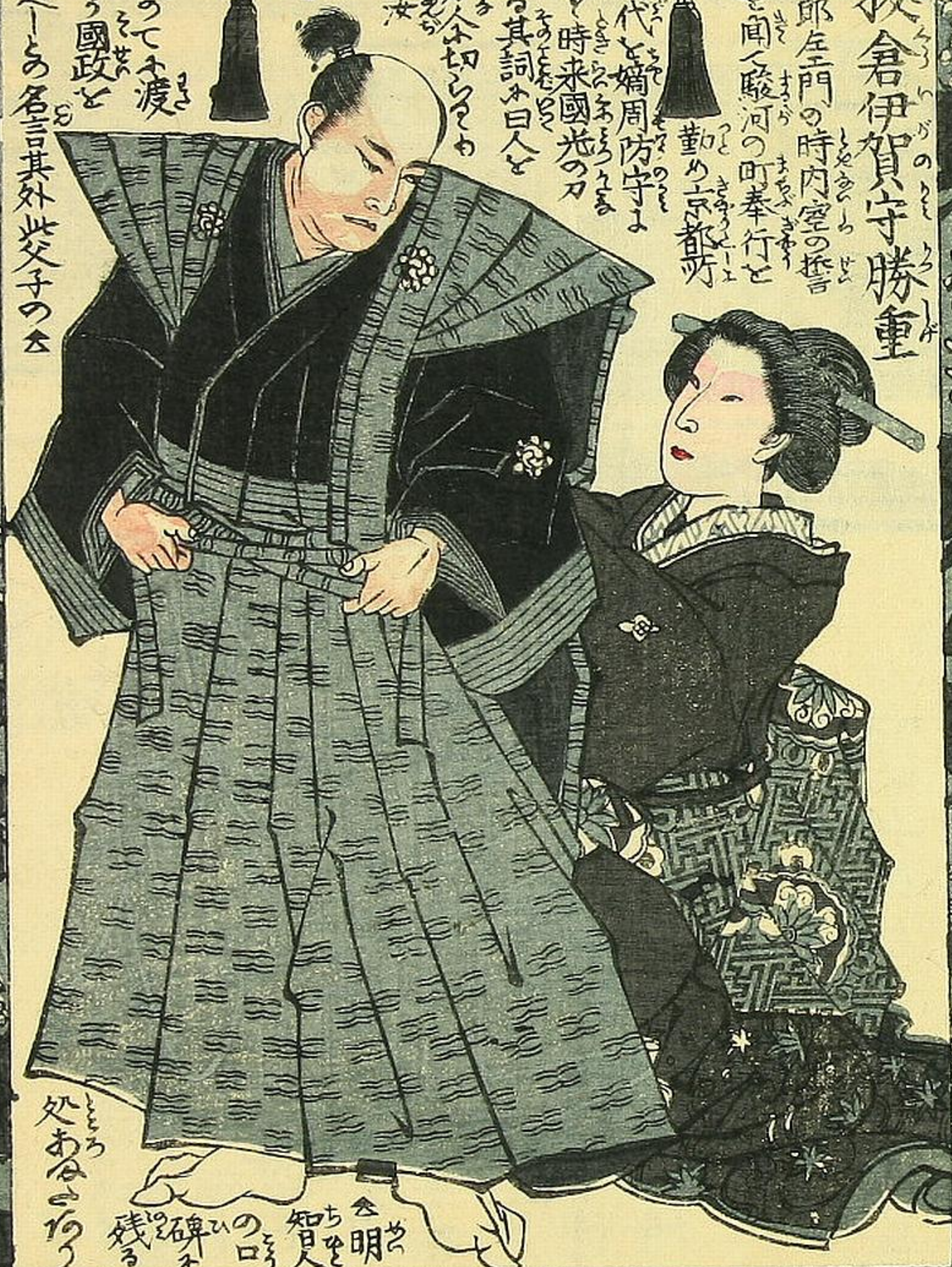
本多佐渡守正信

此臣ハ徳川家草創より風諫の
 達者にて上意の可き大
 声より不可あらず居眠る
 こと若へも言葉少くして
 軍国の機ふ触あらず
 史二代將軍の執政とせられて江戸
 城よがる神君と大殿秀忠公と若殿と
 よぶ者の諸臣多しといふも此臣と本多作左門のそありといふ



板倉伊賀守勝重

此臣郎左門の時内室の誓言
 言を聞て駿河の町奉行と
 勤めし京師
 可代と嫡周防守よ
 譲らば時來國光の刀
 と送る其詞曰人々
 切も刀公切らざる
 刀又汝
 是と
 狂人つて本渡
 守る一の名言其外此父子の云



処あな
 残の碑いの
 智を明
 見を明

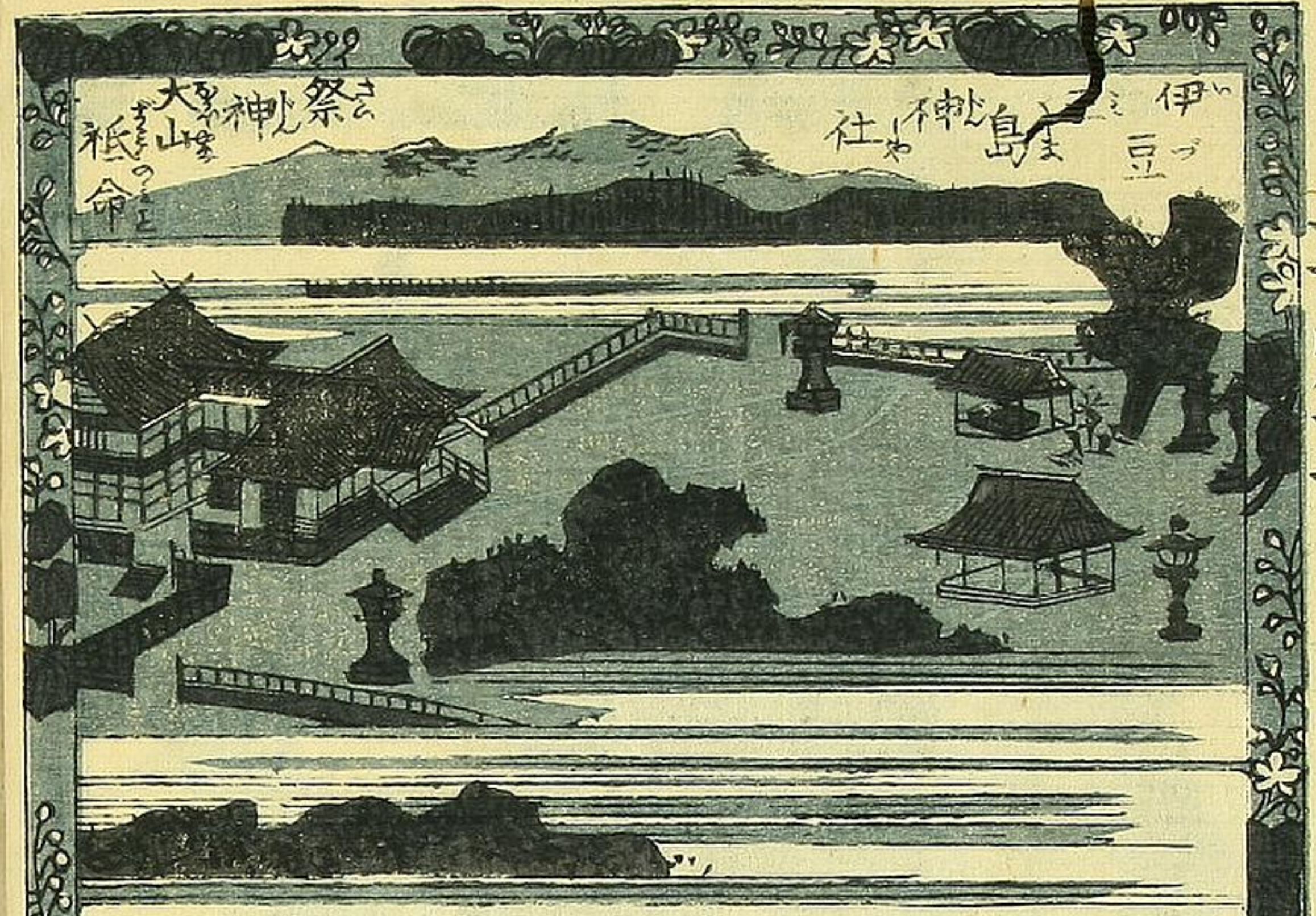
二編上



鳴明神

上みそ下めそまはるあはを
 獨を懐むとくはあつるる
 徳川二代の御孫の
 臣孫の御孫の
 さえんよりいもほ
 み大所野の
 心腹を
 おちいさを
 あへハ

△父子
 君臣
 和合の御宴會の夜
 とひきり第一の投擲中の
 は素入をせうまて△
 名ハ入る
 鳴明神の
 ことしの
 うきをさう
 小曲を
 社人え
 ぶらめ
 けさ
 らの魚
 名ハ入る



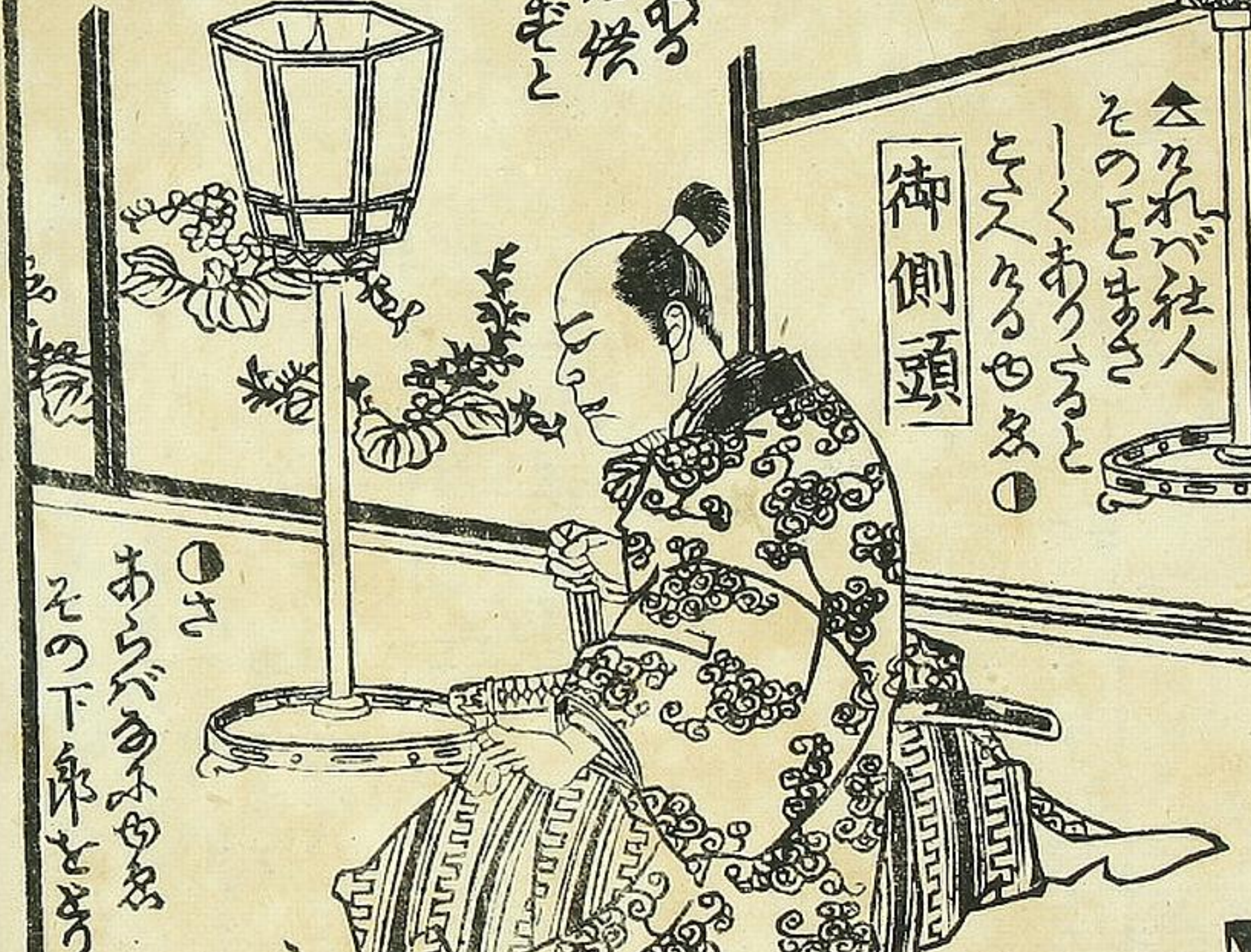
伊豆三島神社
 大山神祭
 命

東鑑
 治承四年十月廿一日源右幕
 下君三島明神の眞助に依て
 御祈願成就し付宝前より於て
 神領の寄進状と書目せられぬ
 伊豆國御園河原ヶ谷
 長寄
 可早奉免敷地三島大明神
 右件々園者為御祈禱安堵
 公平所寄進如件
 十月廿一日
 前右兵衛佐源頼朝朝臣

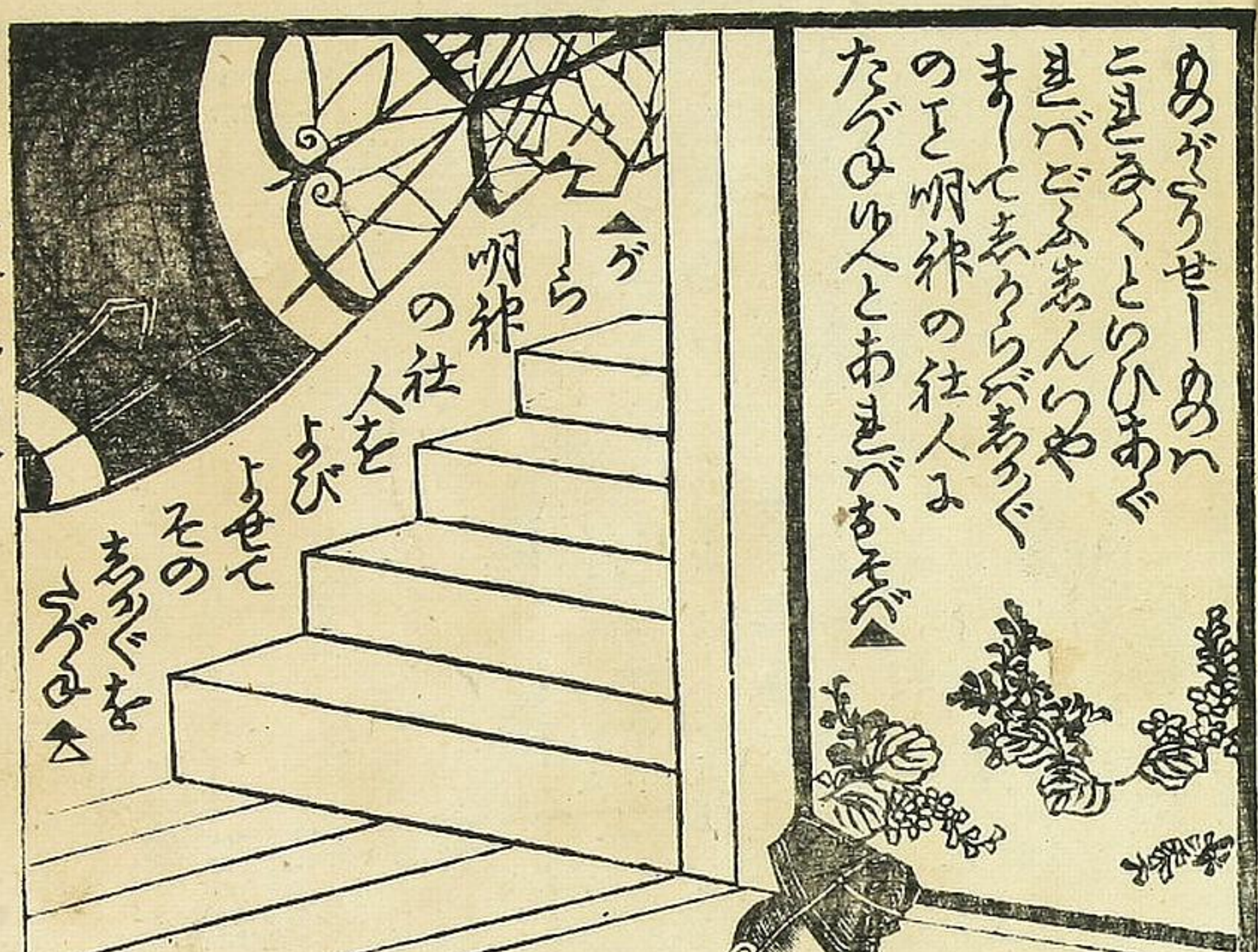
三州

三

つぎ明
神のつら
いめさ
昔よりさるめのも
あまのあかしのい
人よる世とらう
よる世とらう
かみらさ神を
うみむるとさ
なればよる世とら
なまがたぐんのは
めし神をあらわ
さる世とらう
あまのあかしのい
かみらさ神を
うみむるとさ
なればよる世とら



▲なれば社人
その正も
くありさ
とえたるも
御側頭
▲あまのあかしのい
かみらさ神を
うみむるとさ
なればよる世とら
なまがたぐんのは
めし神をあらわ
さる世とらう
あまのあかしのい
かみらさ神を
うみむるとさ
なればよる世とら



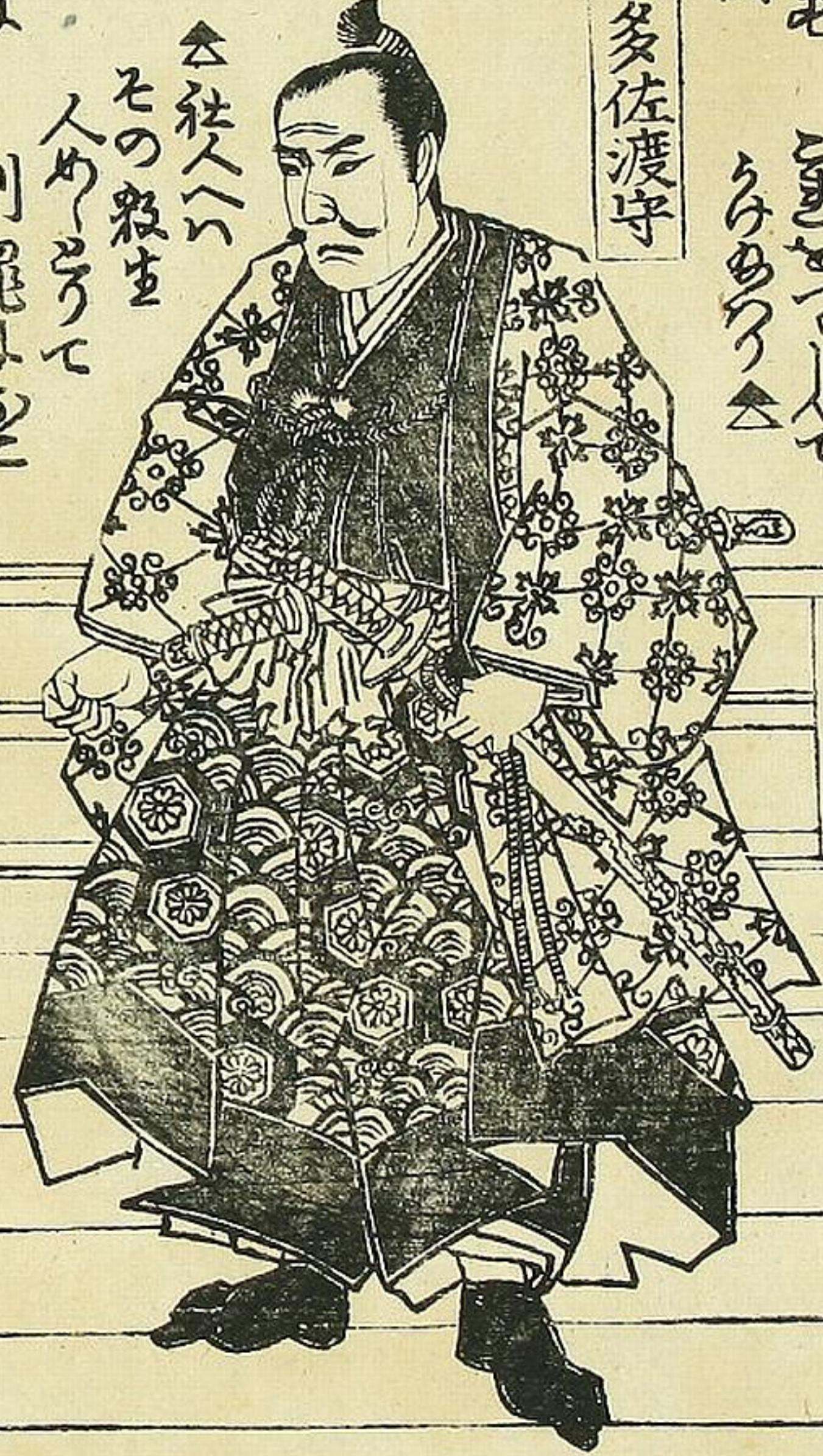
あまのあかしのい
かみらさ神を
うみむるとさ
なればよる世とら
なまがたぐんのは
めし神をあらわ
さる世とらう
あまのあかしのい
かみらさ神を
うみむるとさ
なればよる世とら

▲あまのあかしのい
かみらさ神を
うみむるとさ
なればよる世とら
なまがたぐんのは
めし神をあらわ
さる世とらう
あまのあかしのい
かみらさ神を
うみむるとさ
なればよる世とら

つきこりし人根
儀の田畑ときん
せりそまのまきま
は神と箱根の関
東の徳守
あて平天下
と守備する
神あるまきまを
おぐんののせし
をのめてあへが
ろみまるとたひ
御文書御の
かひそめちぢぢ
なれをその下布
めをむくして社家よ
さらしそのかこりみ
かまがけあひひ
とがのあごんをさ
れみあふりして備

▲西くろあま
くろ佐ま
まをつしん
ちのあつ

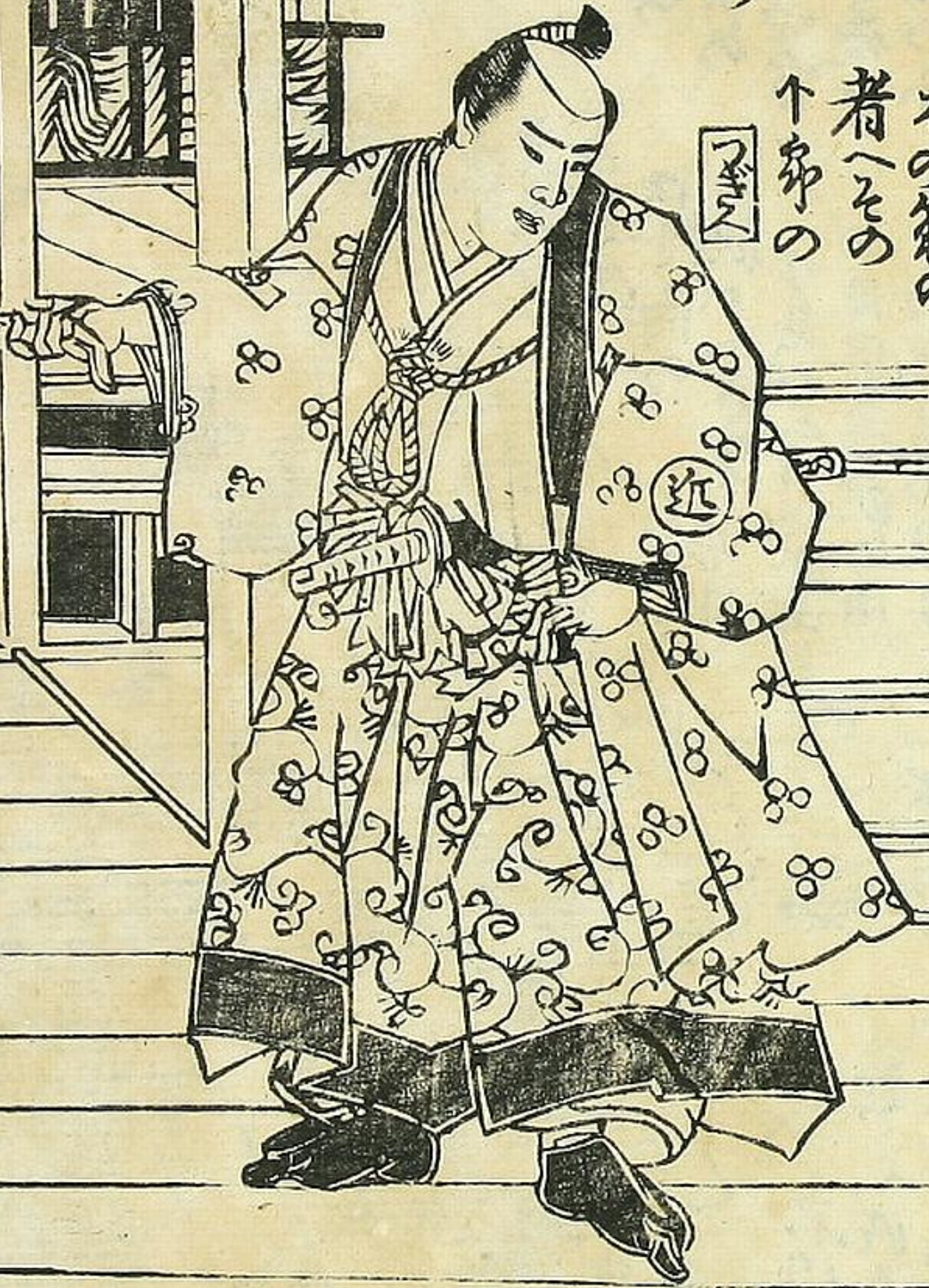
本多佐渡守



△社人へ
その殺生
人めどうて
刑罪よむこ
あふがま
神徳とあふ
をーとらひ
ことそま

人よえせめその
うふて刑罪よ
むとあひ人を
のめて万人とさ
まべーまは人
のりて愛者み
かふるへかま
まきと由国法
よへかかこと

その物の
者へその
下布の
つま



三州

神代明神
 助明神
 平天下
 まのうせ
 むんとそら
 ありとちま
 さふらさ
 まるもた
 ありさ
 まのうせ
 今日上極

今九女小あらせぬ
 長男竹千代君
 八女よあらせたまふ
 次男國千代君の
 四女よあらせたまふ
 むくりはとも月
 る人のあらせたまふ
 女よあらせたまふ
 上老方とせたまふ
 おまの女中も

後
 連枝の家門と
 諸般人ときき
 とし
 九
 城
 ありま川
 四教へ
 山出む
 うひみ
 おのむ
 おのむ
 るるせの供
 るれば諸人
 今年

今九女小あらせぬ
 長男竹千代君
 八女よあらせたまふ
 次男國千代君の
 四女よあらせたまふ
 むくりはとも月
 る人のあらせたまふ
 女よあらせたまふ
 上老方とせたまふ
 おまの女中も



つま ちかをみもかをき
 みゆりせし道ぬ
 とらんと竹
 千代君の
 母春
 賜るまづつ
 て心あらき
 おり人ばさの
 女中どりてその
 表さへとまらせ
 今月おま
 入の心余り
 石川口敷へおま
 むらひおらせら
 せしとつて
 妻日のるい
 まちめんあま
 さてい今日ま

「まじり色」
 その中おま
 君のちか
 むらひある
 みん君
 とまふ
 まく
 びふけふ
 ちかは君
 とまふ



こまにちかをみもかをき
 のせてお十代
 さまみさど
 せんとお
 君も今
 うま
 ちか
 子との
 け
 け
 のころ
 さいひめ
 できるいせけん
 みま
 ちか
 とも
 おま
 のひと
 上ま



二葉抄

大英

つぎ なるうことありま
 志てさのそひありとよま
 こひさうげるくゆふ
 くこのこさげんとらふ
 とらふ上極いせ
 らむてはあふふ
 つさふふ
 女中がの
 はめえり
 ままは
 はの城の

△のあまの太英へあつり
 一七のあまのうあふ
 八のあまのうあふ

竹千代君

はいとあると
 美とつくし
 以腰物とま
 上りてあぐくの
 かつとをを
 さあらうあつ
 後河名物の山土産

△ま
 さあてあ
 ふあ
 如中まへそのあ

のこま
 未の
 年九
 未の
 年九
 未の
 年九
 未の
 年九
 未の
 年九
 未の
 年九

明良二葉抄

初編は通し出版

朝鮮異聞 四冊 續切

繪奉一代紀物品

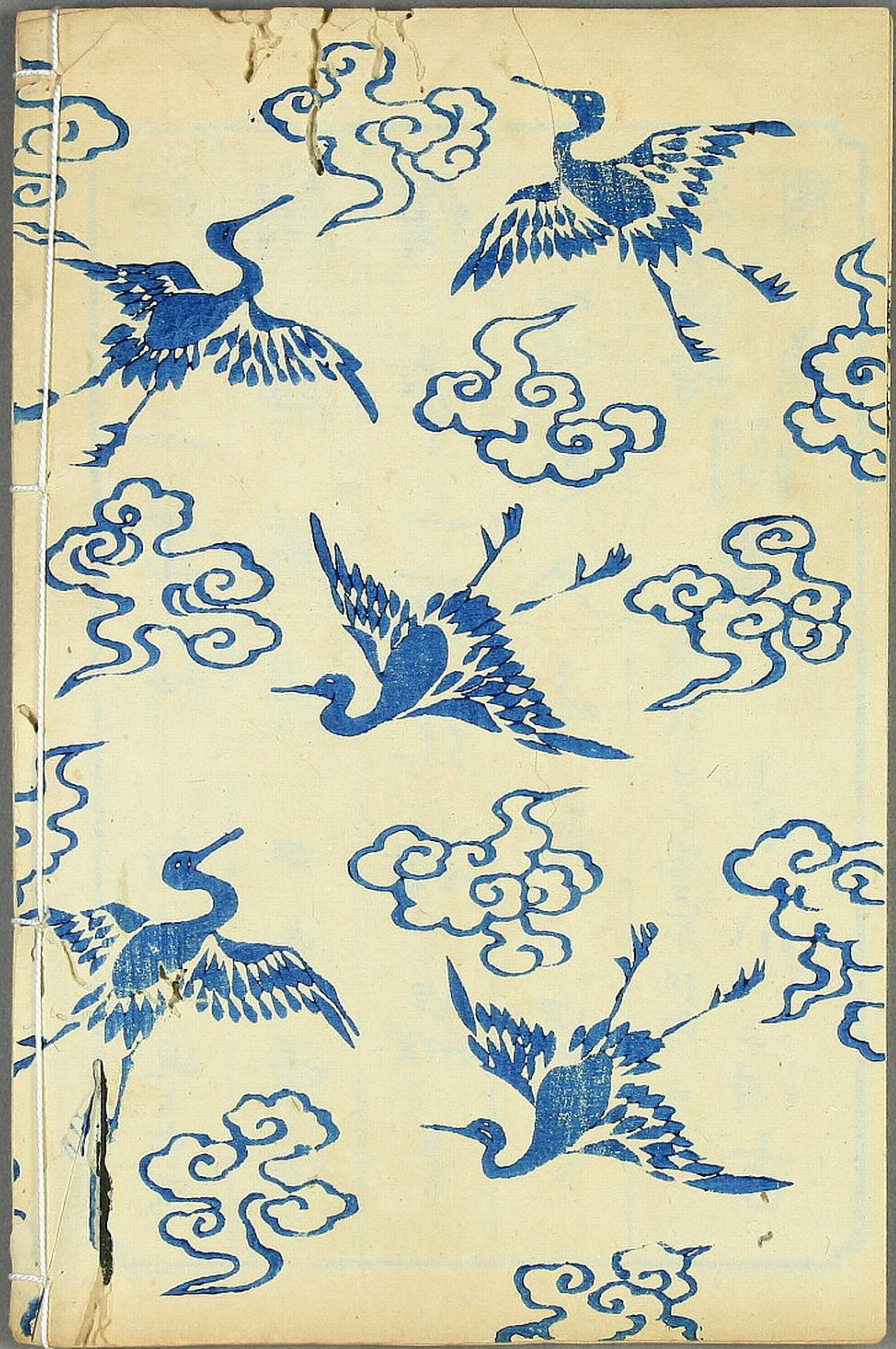
上等色入小本品

地本錦繪

東京日本橋区本銀町二丁目角

團扇 問屋 武川清吉

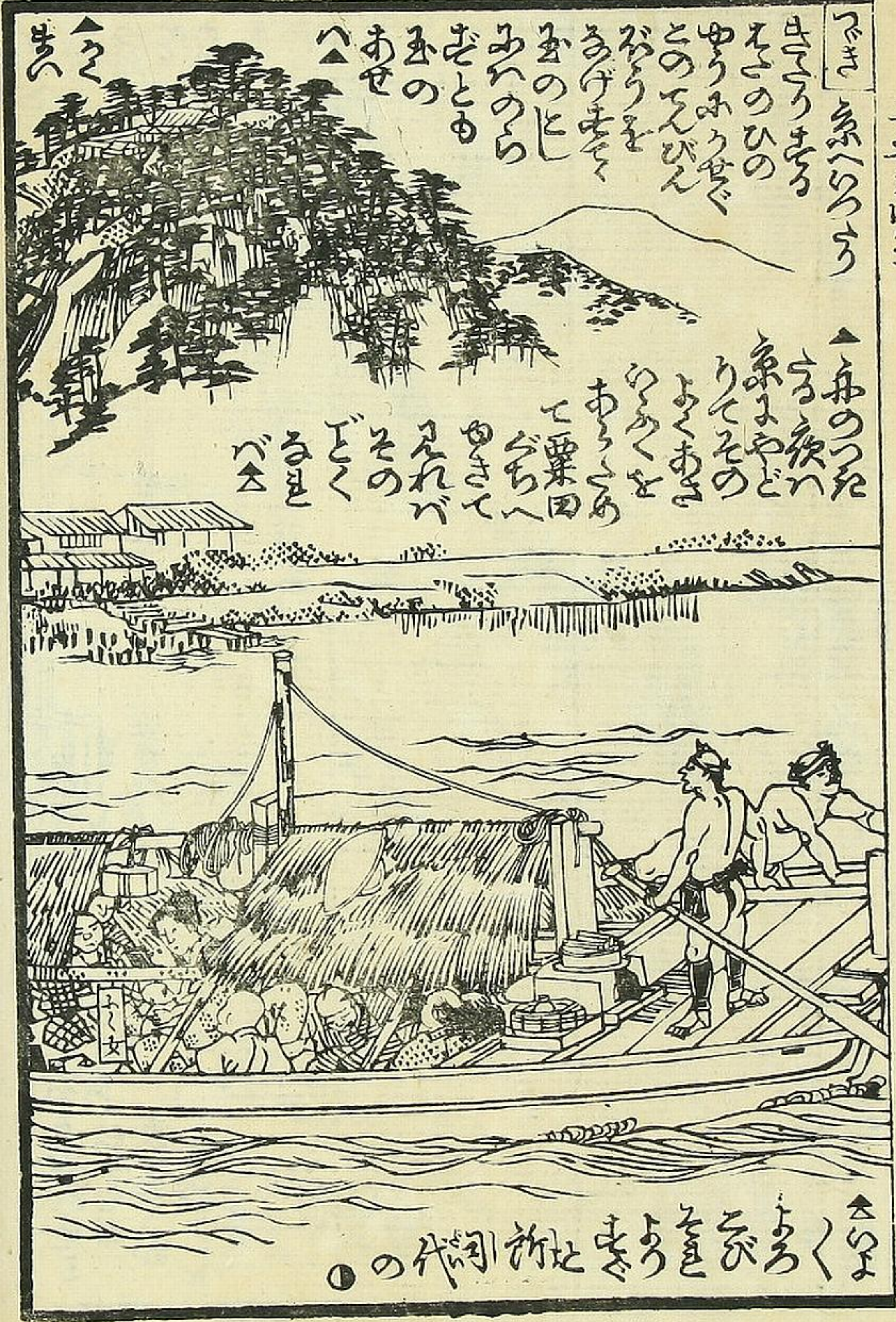
010190515490



東五原国司筆

下
海の
花
武
ん

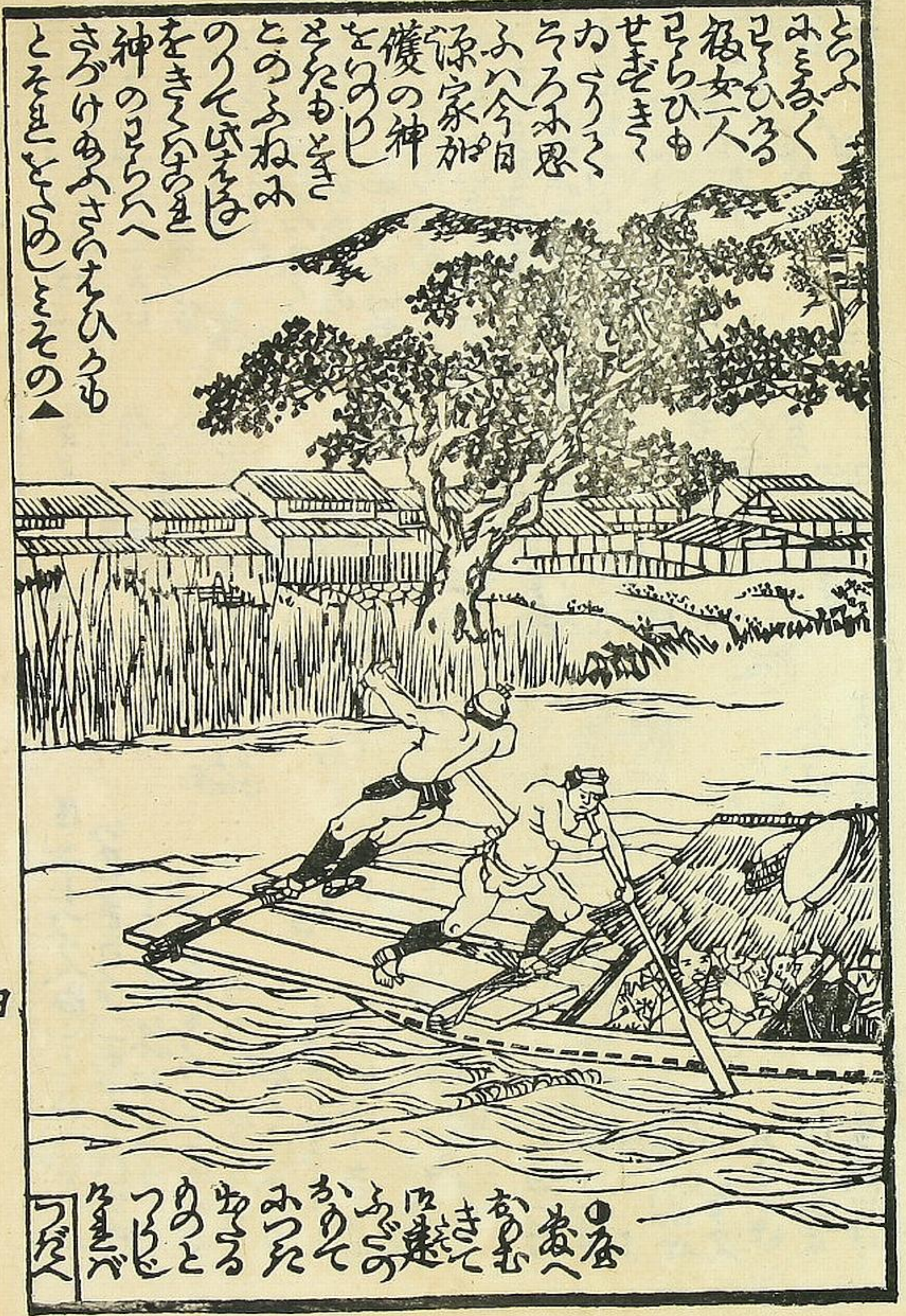




▲

つぎ 糸へらりう
 糸へらりう
 そのひの
 ゆうゆうを
 このてんびん
 ぶらり
 多げま
 玉のじ
 みのら
 びとも
 玉の
 あせ
 ▲舟のつた
 糸よやど
 りてその
 よくあま
 ゆめくを
 あうこあ
 て栗田
 ぐちへ
 ゆきて
 えねバ
 その
 ごとく
 るま
 べ

▲のよ
 く
 家
 ま
 新
 代
 の



とらふ
 みま
 後女一人
 己らひも
 せまき
 わらう
 ろろふ思
 ふへ今目
 源家が
 僕神
 どのふねみ
 のりてはま
 をまき
 神の
 さがけ
 とそ

●茶
 ちむ
 きて
 ば
 かの
 かの
 みの
 つら
 ちる
 ちる
 つら
 つら
 つら



あまの
とちうへ
且つい成
てふよら
そひるると
一もちや

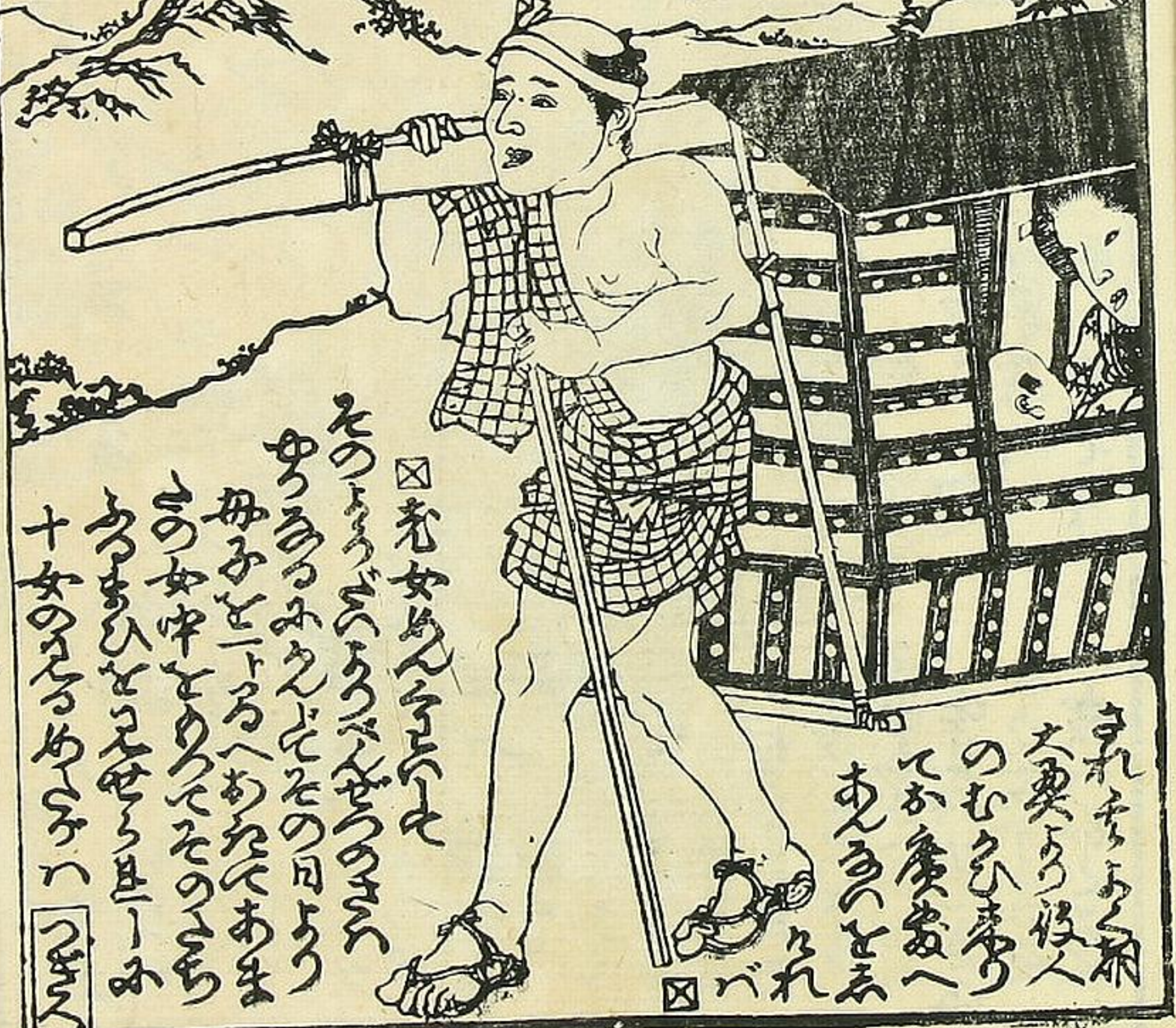
ふまの
あつ
まを

△おのり
あまの
あつ
まを

△おのり
あまの
あつ
まを

△おのり
あまの
あつ
まを

△おのり
あまの
あつ
まを



△おのり
あまの
あつ
まを

△おのり
あまの
あつ
まを

つきあがりゆへ
 くだけりけり
 このあふりゆへ
 ぐうとまをくた
 あみのふんト
 くらみあてり
 あたよあまけり
 くとふりららぬの
 あるとらふま
 つげこのあみの
 おのてをまうら
 ひてりひあがり
 ありがくもねひの
 くと三人のせが

万亭應賀作
 揚洲周延画

▲徳川家のかん人
 みありのる娘女
 のまはたらみ娘
 まはたの
 つき三巻ん
 四巻ん
 国千代君の
 のせ
 まるのせつた
 小あひまき
 春日の君
 一命とあふり
 行千代君
 六代の物置
 まのふ
 女の善力
 天地とらうま
 まるあつは双紙の地玉の
 とがらとちひれ玉の



全巻
 女
 八巻
 三巻
 二巻
 一巻
 月
 お
 編
 海
 り
 の
 は
 の
 の
 の

明良二葉 初編より進み出板

朝鮮異聞 四冊續切

繪奉一代紀物 品々

上等色入小本 品々

地本錦繪 問屋 武川清吉
 東京日本橋区本銀町三丁目角



